



# 福島原子力事故関連情報アーカイブ

Fukushima Nuclear Accident Archive

Title	心理放射能学によるリスクコミュニケーションの分析
Alternative_Title	Analysis of risk communication by psychological radiation science
Author(s)	大谷 浩樹(帝京大学), 木下 麻友子(首都大学東京), 津村 奎(首都大学東京) Otani, Hiroki(Teikyo Univ.); Kinoshita, Mayuko(Tokyo Metropolitan Univ.); Tsumura, Kei(Tokyo Metropolitan Univ.)
Citation	第6回環境放射能除染研究発表会要旨集, p.97 6th Workshop of Remediation of Radioactive Contamination in Environment
Subject	セッション：環境再生・復旧・復興、食の安全、リスクマネジメント、野生生物
Text Version	Publisher
URL	<a href="http://f-archive.jaea.go.jp/dspace/handle/faa/135423">http://f-archive.jaea.go.jp/dspace/handle/faa/135423</a>
Right	© 2017 Author
Notes	禁無断転載 All rights reserved. 「第6回環境放射能除染研究発表会要旨集」のデータであり、発表内容に変更がある場合があります。 学会は発表の機会を提供しているもので、内容に含まれる技術や研究の成果について保証しているものではないことをお断りいたします。



# 心理放射能学によるリスクコミュニケーションの分析

大谷浩樹<sup>1)</sup>, 木下麻友子<sup>2)</sup>, 津村奎<sup>2)</sup> 1) 帝京大学, 2) 首都大学東京

## 1. はじめに

環境放射能の変化に伴い、放射線被ばくに対して不安や悩みを持った人への心理的ケアが必要である。本研究の目的は、環境放射線が与える心理的影響の視点から不安の解消を目指し、放射能のリスクコミュニケーションの分析を行うことである。

## 2. 研究方法

10～60代の男女60名を対象に福島県産食品の安全性について理論的に書かれた文章を読み、理解の可否を回答すると共に専門家の意見やデータが追加された場合の変化を分析した。アンケートの内容(図1)は、理論的に書かれた文章のみで納得できるか。専門家の意見やデータが追加された場合には納得できるかについて、フローチャート形式で行った。また、放射線についてどのように考えているかという意識調査についても行った。

## 3. 研究結果および考察

福島県産食品の安全性について、半減期など科学的根拠に基づいて書かれており、その上で安全であると述べているため、年齢や性別によらず納得できたという回答が最も多い結果になったと考えられる。また、専門家の意見やデータを追加した場合には納得できるという回答が全体で15%となった理由としては、信用性の高い専門家などの意見により信憑性が増し、不安が解消されるからだと考えられる(図2, 3)。

放射線についてどう考えているかという意識調査では、放射線についてあまり考えていない、気にしないようにしているという人が67%と最も多く、現在も放射線に関する情報を目にしていると回答した人が27%、放射線についての不安があり、他の人と悩みを共有したいと回答した人が6%であった。

## 4. まとめ

本研究では、福島県産食品の安全性を題材としたアンケートを実施し、放射線に関する正しい知識、科学的根拠によって心理的な解決ができ、心理放射能学の有用性を示すことができた。また、放射線に関する正しい知識、科学的根拠によって心理的な解決ができ、リスクコミュニケーションの分析の一助となった。

## 5. 参考文献

- 1) 広瀬幸雄：リスクガバナンスの社会心理学，株式会社ナカニシヤ出版，1-11, 2014
- 2) 富森崇：箱庭療法学研究（第26巻 特別号 別冊）福島県での心理支援活動 東日本大震災対策プロジェクトの実践，日本箱庭療法学会，90-91, 2014

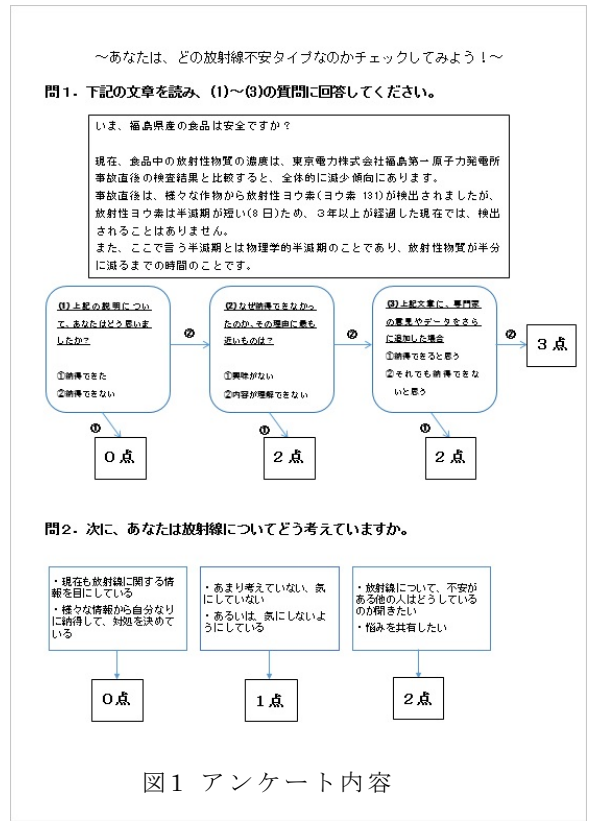


図1 アンケート内容

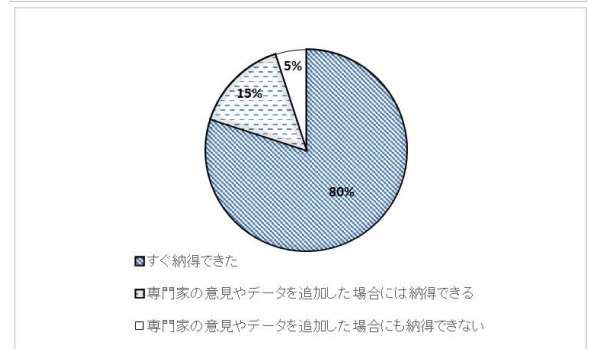


図2 安全性の理解度

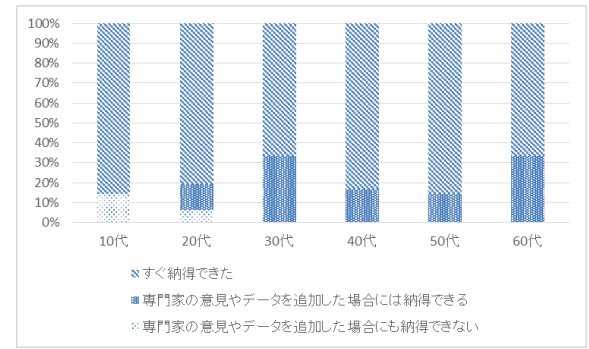


図3 年代別の安全性理解度